



形と色に向き合う時間

校長 藤森克彦

報道等によると、東京都の新規感染状況などから新型コロナの感染が収まって様子が伺われます。学校においても子どもたちの感染事案がほとんどなく落ち着いてきています。これもひとえに、お子さんが体調を崩した際に念のため登校を見合わせたり、すぐに医療機関に相談したりしていただくなど、家庭でのきめ細やかなご対応ご協力のお陰です。感謝申し上げます。このところ気候が急に冬到来の様相を見せています。日々の健康管理と合わせ、引き続き感染防止を進めてまいります。

さて、半年前の3月、知り合いの方から連絡をいただきました。それは、今、横浜のデパートで展示会が開催されていて、その作者の年譜に「大井第一小卒業」とあったとおっしゃるのです。その作者の方は日本を代表する美術家・篠田桃子さんでした。さっそく私もその展示会に行ってみました。文字の形にとらわれない水墨抽象画という独自のスタイルの作品が、80点余り展示されていました。墨で描かれた作品は何を表現しているのか、その心は何か。読み取る側の技量が乏しく作品の価値を十分に汲み取ることはできませんでしたが、本校にゆかりのある方というだけに、特別な親近感に浸って作品の雰囲気を楽しむことができました。篠田さんは惜しくも今年3月に107歳で亡くなりました。ご冥福をお祈りするとともに、後輩の活躍を見守っていてほしいと願うばかりです。

ところで、11月18日（木）から展示会「大一アートミュージアム」が始まります。体育館での展示のみならず、3日目の20日（土）には5年生による校庭での造形遊び、6年生の「子ども学芸員」としての案内なども予定しています。子どもたちは作品作りにさらに励んでいるところです。図工室は職員室の並びにあるので、しばしば授業の様子を覗くこともあるのですが、子どもたちがあまりにも真剣な顔つきで作品作りに没頭しているので、図工室に入るのを思わずためらってしまうことがあります。そんなときは、図工室前の廊下の棚に並んでいる制作途中の立体作品を眺めています。

最初は何ができるのか分からないものが、日に日にどんどん出来上がっていく、その過程がよく分かります。そんなとき、この色づかいはセンスがいいけれど自分で考えたのかな、どういう気持ちでこの形にしたのかななど、想像を巡らせてしまいます。我が家ではよくありましたが、材料として家で使い終わった箱や容器などを持っていくようなときに、家の人に「今日学校に持っていくから〇〇が欲しいと言われても、すぐ用意できるわけないでしょ」と叱られたことがあったかもしれません。その時どきの子どもたちの気持ちや生活の様子が目に浮かんできます。そこが一流の美術館にはない学校展示会のよさです。

ちなみに、鑑賞の「鑑」の字には、「見る」という意味のほかに、〇鏡に映して見る、〇前例と比較して見る、〇手本として見る、などの意味があるそうです。展示された自分の作品を自分が見たとき、いいなというところと、もう少しこうすればよかったというところ、本人ならではの思いがあるでしょう。それは、鏡を見るように自分の心や姿を見ているのと同じです。また、小さい時に比べ自分が成長したなど思うところもあるかもしれません。そして、友達や上級生の作品の中に、気に入ったものや憧れを感じたものもあるでしょう。そんな子どもの「思い」を、我々大人が会話を通して引き出してあげたいものです。ただし、その時は「褒める」が原則です。なぜならば、鑑賞の「賞」の字には、「褒める・たたえる・楽しむ」という意味があるからです。客観的に技能の質や作品の講評だけで終わってしまえば、「鑑」「賞」になりません。

篠田さんは著書の中でいくつもの言葉を残されています。その一つに、「誰の絵に勝ったのでもないし、誰の絵に負けたのでもない。競争しているわけではない。私は私の絵。ただそれだけ。」とあります。我が子の作品は鏡に映った我が子の姿です。大切にしたいと思います。



大一体育祭、がんばりました！



1年

1年担任 高橋 璃子

1年生にとっては小学校生活初めての体育祭、団体競技は「ダンシング玉入れ」を行いました。音楽に合わせてフリフリ踊るあひるダンスは、病みつきになってしまうほど可愛らしかったです。本番は声援を受け、一番の笑顔で踊っていました。見事玉入れで優勝したのは月組でした。そして、応援席の皆からもらった大きな大きな拍手によって、“ノリノリダンス対決”は4チームの皆が勝ち、大成功の団体競技になりました。自分たちの種目が終わった後も一生懸命応援し、上級生の活躍に目を輝かせていました。「あんなに速く走れるようになれるかな」「いつか応援団に入りたい」と口々に話す1年生でした。いつか6年生のようなカッコいい上級生になれることを期待しています。皆の成長が楽しみです。

2年

2年担任 岸田 淳生

2回目の大一体育祭となった今回は、2年生の団体競技「大玉ころがし」を中心に練習を重ねてきました。「どのように転がしていくと速いか」「次の走者に渡すときに気を付けることは」「ファールになっていないか」と学級で作戦を立て、撮影したビデオを見て速いペアやよい渡し方を確認して作戦を修正していきました。学級のみinnで作戦を立てたことで一体感が生まれ、とてもよい競技になりました。また、短距離走でも並び順や整列の仕方、フライングのないスタートなど様々なところで1年間の成長を感じました。そして、何より力強い走りに関心しました。大一体育祭を通して、他学年の競技を観戦する態度や開閉会式での話の聞き方、応援合戦での盛り上がりなど大井第一小学校の2年生として立派な姿が見られました。

3年

3年担任 青柳 麻彩

3年生の団体競技は「つなとり合戦～大ヶ原の闘い～」でした。「校庭の真ん中にある9本の綱を2クラスで取り合い、自分たちの陣地により多く入れたチームが勝利」という競技です。クラスで何度も話し合い、練習を繰り返すうちに、戦い方やクラスごとに決めたエールに個性が出てきました。どのクラスが勝つか当日になるまで分からないくらい、4クラスが切磋琢磨しながら成長できた体育祭でした。練習の成果を発揮できて喜ぶ姿、思い描いていた結果ではなく、悔し涙を流す姿も見られ、子どもたちが「嬉しさ」「悲しさ」「悔しさ」で心を動かしていることを強く感じました。子どもたちからは「悔しかったけれど、クラスのみinnで全力を出し切ったので後悔はない」「来年こそ笑顔で終わる」という言葉を何度も耳にしました。体育祭で培われた心とクラスの団結力を、今後の学校生活に生かしていきます。

4年

4年担任 藤田 貴城

4年生は昨年度より更にたくましくなった姿を披露しました。「台風の日」では、各クラスで作戦を立てたり、練習をしたり一生懸命取り組んできたことの成果が発揮できました。競技に向かう姿勢や競技を終えた後の様子など、それぞれのクラスのカラーが出ていてとても盛り上がりました。熱闘を繰り広げた後には「来年の体育祭に向けて長縄の練習をしよう」と既に意気込んでいる児童もいたほどです。体育祭後の振り返りには「みんなで協力できた。クラスの団結力が高まった」「来年は高学年として体育祭を引っ張っていきたい」などと書いている児童がいました。全力を尽くして達成感を得た経験、各係で尽力する先輩の姿を見て学べた経験は、子どもたちのさらなる成長につながると思いました。高学年に向けて、子どもたちのさらなる成長と活躍に期待しています。

5年

5年担任 坂本 誠

5年生は学年団体競技として大縄跳び「八の字跳び」に取り組み、クラス同士競い合いました。クラスごとにどうしたら跳ぶ回数を増やせるのか、試行錯誤しながら練習を積み重ねていきました。時には意見がぶつかり合うことや、上手くいかずに頭を悩ませたこともあったことでしょう。そのたびにみんなで知恵を出し合い、励まし合い、協力していくことを学びました。本番では、一生懸命頑張ってきたからこそ、悔しさも嬉しさもたくさん感じたと思います。また、高学年として、応援団やリレーの選手、審判・放送・出発補助などの係を担当するなど、学校を支えるリーダーとなって活躍する子どもたちも多く、これからの成長がますます楽しみになりました。



6年

6年担任 八木 健登

6年生にとって、小学校最後の体育祭となった今年。子どもたちそれぞれ心の内に体育祭への秘めた熱い想いがあったと思います。どの競技も一人一人よくがんばっていました。その中でも特に短距離走に感動しました。スターターを担当させていただき、スタートラインに立つ6年生の表情をはっきりと見ることができました。どの子も、最後の体育祭にかける思いにあふれ、いきいきとした表情でした。そして、スタートの合図で力いっぱい走り抜けていく姿が本当にかっこよかったです。学年便りのタイトル「Get Set」に続く「GO!」のように、中学校へと向かって小学校を巣立っていく姿と思わず重ねてしまいました。また、6年生は応援団やリレー、各係の仕事を通して体育祭を立派に運営し、盛り上げました。大井第一小の後輩たちも、6年生の姿を見て何か心に響き感じ取るものがあったのではないのでしょうか。最高学年として彼らが体育祭で感じ、学んだことをこれからの生活に生かしていけるよう、担任4人でサポートしていきます。

体育的行事委員会より

大一体育祭実行委員長 村上 剛

今年度も無事に大一体育祭を実施することができました。保護者の皆様には健康管理をはじめ、大一体育祭に向けて多大なご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。

各学年、短距離走と団体競技を実施しました。今年度も学級対抗で競い合い、6年生を中心とした「チームO組の絆」が深まっているのが分かりました。今後の学校生活でもさらに育んでいきたいと考えます。

また、応援団による応援合戦や4年生から6年生の代表児童による選抜リレーも盛り上がりました。応援団やリレーの選手は朝練習をはじめ、中休みや昼休みにも自主的に練習するなど本当によく頑張りました。

6年生のリーダーシップのおかげでよりよい学校行事になりました。6年生のてきばきとした係活動がなければこの行事の成功はありませんでした。また、1年生から5年生の6年生に対する信頼と協力に支えられた体育祭でした。全児童の頑張りを称えたいと思います。

<令和3年度 大一体育祭 結果>

組	白組 (松組)	青組 (竹組)	赤組 (梅組)	黄色組 (月組)
点数	373	395	313	433

年間重点生活目標「正しい姿勢を意識して生活しましょう！」

今月の生活目標

生活のめあて	チャイムスタートをしましょう
保健のめあて	うがいと手洗いをしましょう
給食のめあて	感謝して食べましょう

11月の行事予定

日付	曜日	主な行事	日付	曜日	主な行事
1	月	朝読書① 午前授業 読書旬間始	16	火	放送朝会 学力向上を図るための調査(5年)
2	火	放送朝会 学力向上を図るための調査(6年) 社会科見学(3年) 和楽器授業(5年)	17	水	
3	水	文化の日	18	木	展覧会(児童鑑賞日) TGG(5年)
4	木	朝読書② 和楽器授業(5年)	19	金	展覧会(児童鑑賞日)
5	金	委員会 図書集会 和楽器授業(5年)	20	土	展覧会(保護者鑑賞日) 土曜授業
6	土	土曜授業日 学校公開 Shinagawa Global Day	21	日	
7	日		22	月	振替休業日
8	月	朝読書③ 避難訓練(二次避難)	23	火	勤労感謝の日
9	火	放送朝会 卒業アルバム個人写真(6年)	24	水	午前授業 個人面談①
10	水	朝読書④ 町探検(2年) 午前授業	25	木	午前授業 個人面談②
11	木	朝読書⑤ 社会科見学(4年)	26	金	音楽朝会 午前授業 個人面談③
12	金	朝読書⑥ フレンドタイム 読書旬間終	27	土	
13	土		28	日	
14	日		29	月	ネットリテラシー授業(6年) 午前授業 個人面談④
15	月		30	火	放送朝会 午前授業 個人面談⑤ 学力向上を図るための調査(4年)

生活指導部より

オールクリア

家庭科専科 木村 ひとみ

今月の生活目標は「オールクリア」です。教室を離れるときや下校するとき、机の上に出ているものをしまっ、何も無い状態にします。これは、「モノ」の使い方のお話ではありません。学校生活でのけじめの付け方の練習です。遊ぶときは思い切り遊ぶ、学ぶときはしっかり学ぶためには、気持ちを切り替えないとうまくいきません。そのために終わった時間の学習道具をいったん全部しまします。すると次の時間も、必要なものだけを机の上に準備して学習に集中することができます。

もう習慣になっている子どももたくさんいます。まだのひとは、意識してオールクリアしてみてください。

※お願い 貸出用の上履きが不足しています。23.5cm以上のもので、もう使わなくなったものがあれば、学校に寄付していただくと助かります。

リレーコラム「かかわる・創る」

5年担任 坂本 誠

体育祭後、5年生のある児童が「先生、私応援団をやってよかった。応援団をやったおかげで1年生とも仲良くなれたし。最初は練習も大変だったから、立候補したことを後悔したときもあるけれど、結果的に本当に楽しかった。来年も挑戦したい」と話しかけてくれました。この児童は、応援団に自ら挑戦することで、これまで「かかわる」ことのなかった1年生と自ら「かかわり」、そして、成長する経験、充実感を得る経験を自らの挑戦によって「創る」ことができたのだと思います。コロナ禍における日常生活では、大人でもついつい受け身になり、「楽しいことが起きないかな」と待ってしまいがちな現在において、自ら「かかわり・創る」という姿勢が大切であることを再確認させられました。全ての児童がこのような経験ができる機会をつくっていきます。